

辺詞へんし  
(張敬忠ちやうけいちゆう)

五原ごげんの 春色しゆんしよく  
旧来きゆうらい 遅おそし

二月にがつ 垂楊すいよう  
未だいま 糸いとを 挂かけず

即今そくこん 河畔かはん  
氷こおり 開ひらくの 日ひ

正まさに 是れこ  
長安ちやうあん 花はな  
落おつるの 時とき

五原春色舊來遲 二月垂楊未挂絲  
即今河畔氷開日 正是長安花落時

解説 辺境にあつて、都への思いを寄せて作ったもの。

語釈 ※辺詞Ⅱ 辺境を詠んだ歌。 ※五原Ⅱ いまの内蒙古自治区  
五原県のあたり。 ※旧来Ⅱ もともと。 ※即今Ⅱ ただいま。  
※正是Ⅱ ちやうどである。

通釈 五原あたりの春はもともと遅い。しかし、もう旧暦の二月だというのに、しだれ柳は芽ぶきもしない。いまは黄河のほとりの氷がとけたが、都長安では、ちやうど花が散るころだ。